

平成24年度「生と性のカリキュラム」授業実践報告

1 学級活動年間計画での性に関する指導の位置づけについて

【平成24年度】

〈その他の内容〉

- ・1・2年は1時間、3～6年は2時間設定している。（小ー1校）
- ・中2（性）と中3は道徳で「生と性のカリキュラム」に準じた内容を実施している。（中ー1校）

【平成23年度】

2 実施状況について

- ・実施月は、2～3学期が多い。
- ・ほとんどの学校で計画どおり実施されているが、小学校で2・3年以外の学年の実施が見送られた学校が1校あった。

3 実施後の感想等

小1（生） … セルフディフェンス講座で実施（全校）

- ・子ども達の登下校や普段の生活で安全管理を考えるよい機会となった。
- ・助けの呼び方等具体的な方法を分かりやすく学ぶことができ良かったと思う。
- ・学年全体で夏休み前の7月に実施。（市のセルフディフェンスは11月）
知らない人からの、不審な誘い、わざと心配させるような誘い、楽しい誘いにはきちんと断ることを考えさせ、対処方法を動作化し、どうしたらよいかを指導した。
- ・外部講師に来ていただき行った。不審者は、どのように声をかけてくるのか教えてもらった。声をかけられたときや手をつかまれたときの対処法を実技をしながら学習することができた。具体的な事例をあげながら、1年生にも分かる言葉で説明していただけたので、数日後に聞いてもよく覚えていた。（複数）

小1（性）

- ・保健室に提示資料が保管されていたので、分かりやすく学習できた。性器の図だけなかったもので、ネットで見つけたものを利用した。資料が分かりやすく、性器は大切なものであることを、子どもたちはよく理解できていた。
- ・指導案と資料がそろっていて、進めやすかった。
- ・児童も興味・関心をもって学習することができた。
- ・水着で隠すところがプライベートゾーンということを知らせながら清潔にすることを紙芝居形式で話した。初めて聞くことが多かったようで、赤ちゃんのもとの大切な通り道があるということに興味深く聞いていた。
- ・男女の違いは、命の元がある場所が違うから、でおさえている。だから水着で隠れる「プライベートゾーン」は大事で、見せたり見られたりしてはいけないところ、清潔に保つところ、けがから守るところなんだという話に、素直に反応していた。
- ・養護の先生が、教材・用具等を用意して、分かりやすく説明してもらえた学習の中で、大事なことを押さえてもらうことができた。

小2（生）

- ・いろいろな場面でのロールプレイで少しふざけてしまったが、自分を守る方法は理解で

きたと思う。

・紙芝居を使い、被害に遭わないためにどうしたらよいか、自分で身を守る大切さを指導した。担任からも、紙芝居は2年生にとってもあっているよい教材であり、途中で止めて、教えてあげてを考える流れはよい、と言われている。また、1年のセルフディフェンスで学んだいろいろな技を思い出しながら、動作化することで、命を守る意識と大切さを感じさせることができた。

・保健センターの方に来ていただき、参観日に実施した。

・紙芝居をTV画面に映してやったので、読み聞かせがやりやすかった。

小2 (性) … 小牧市保健センター専門家派遣事業

・自分が生まれてきたときの様子や両親など周りの人の気持ちを聞くことで、たくさんの人に喜ばれて生まれてきたことを知り、自分の生命ばかりでなく、友だちなど、周りの人も大切にしていこうとする気持ちが持てた。

・出生時と同じ身長・体重の人形を、児童全員が一人一人抱いてみたのだが、とてもよい経験となった。「こんなに重い赤ちゃんが、お母さんのおなかの中で10カ月もがんばっていたのはすごい」などの感想があった。

・学校公開で実施。担任が教室で導入をし、これから多目的室で何を学びに行くのかを押さえたことやふりかえりを教室に戻ってしたことで、保健センター任せでなく、担任もきちんと考えて指導していただくことができた。

センターの方の授業は子どもだけでなく、親にも心に響いたようす。命の始まりのカードを母子手帳に貼ることは、保護者にとっても「この授業を思いだすよいきっかけになる」と好評だった。また、体験も各クラス5～6名の児童とお母さんが実施できたこと、全員にだっこの宿題をいただいたことで、親子の会話が生まれ、親の心にも残る授業になった。保護者からもこの授業は続けて欲しいと要望があった。

・保健センターの方と助産師さんに来ていただき、いのちの学習を行った。子ども達は、赤ちゃんもお母さんもがんばっていることを知り、命の大切さを感じることができ良かった。

・保健センターより、来校していただき、公開日に実施した。用具がそろっており、児童、保護者ともに好評だった。胎盤については、2年生では、難しいのではという声があった。

■1年生時に保健センターの方から指導を受けているので、今年は来ていただかなかったが、中学年でも指導が受けられるととてもよいと思う。

■小1で、保健センターの方から指導を受けていたはずなのに、ほとんど忘れていたようだった。

小3 (生)

・作文を読んで、エアガンが女の子の目に当たった話を聞いて、ショックを受けた子が多かったようだ。自分の身の回りに実際に起こりそうなことなので、気をつけたいという意見が出た。

・テレビでおもしろいとか悪い場面が出てくるものばかりも見てしていると怖い、悪い人間になってしまうという意見が出た。(特別支援学級の児童)

・テレビゲームと上手につきあわないと、心身ともに危険な状態になることを認識できた。

小3 (性)

・学校公開日に実施した。ダイヤモンドランキングでは、意見を聞き合い、意欲的に学ぶことができた。

・グループでダイヤモンドランキングに取り組ませた。子どもたちは活動に楽しく取り組んでいたが、一つの答えを出そうと、まとめることに時間がかかり、命をつなげることや、自分ができることを考えることができたか分からない。

・ダイヤモンドランキングをつけるのが難しかった。関連の絵本（いのちのまつりシリーズ）を借りて、読み聞かせができてよかった。

・命をつなげていくためには、自分を大切にするだけでたった一人になっても仕方ないから「助け合う」ことが大事であるという意見が出た。交通ルールを守るという意見が出た。

・学校公開日に実施。資料の絵カードを使い、自分たちで黒板に貼りながら、目で見て命のつながりを実感し、大切な命をつないでいこうという意欲を持たすことができた。ダイヤモンドランキングも真剣に考えて、話し合う事ができた。命を繋げていくために大切なもの、考えや価値を話し合う内容なので、クラス経営とグループワークの体験によって深まりが違おうと思うが、どのクラスも自分が大切だと思うことをしっかり伝え、聴き合っている様子がみられ、児童の満足度も高く、とてもよかったと担任もふりかえっている。

また、公開日に実施したことで、昨年の授業のつながりを保護者にも話すことができ、次は命をつないでいくために、大人に変わっていく体の勉強をすること、継続して命の大切さを教えていきたいことを伝えたことで、保護者としても生と性のカリキュラムを安心感をもって受け止めてもらえた感想をいただいた。

・いのちがつながっていく「家系図パネル」がとても分かりやすかった。

■クラスに母子家庭父子家庭がとても多く、お父さんとお母さんの絵では、少しやりづらかったのが、動物の絵を使って行った。

■片親の子や、再婚による血のつながっていない親と暮らしている子もいるので、そうした子たちの気持ちへの配慮も必要だと感じた。

小4 (生)

・自分が周りに関わり合い、お互いに支え合いながら、生きていることに気づくことができた。

・保健と関連させて学習し、体の変化に不安を感じる子ども、個人差があることを知り、安心した様子であった。（複数）

・学校公開日に実施した学級があり、友だちの良いところを考える機会となり、人に対する思いやりの心を持つとうという感想が多くあった。

・校区内には実際に被害がある。早い時期に実施し、繰り返し指導していく必要がある。

・アイマスクや車いす体験、点字を打つ体験を通し、体の不自由な人の大変さを実感することができた。また、どんな時にどのような手をさしのべたらよいのかを考えることもできた。

・1年生と同じで、外部講師に来ていただき行った。自分の身は自分で守るということで体験しながらでき、興味をもって行っていた。

小4 (性)

・二分の一成人式の行事前に行ったので、自分の誕生に対する父母の気持ちや思いを感じ

ることができた。父母に対する感謝の気持ちや命の大切さなど、子どもたちの素直な気持ちを手紙にも表すことができたと思う。

・学校の保健の教科書に沿って、養護教諭に「生と性」に関する授業をしてもらった。子どもたちは、命がとても大切であることをしっかりと学ぶことができた。また、体の成長には個人差があり、大人に近づいている証であることもしっかりと学ぶことができた。

・保健学習と関連して養護の先生にお願いした。真剣に話を聞いていた。初めて耳にすることも多かったが、抵抗感を持つこともなかった。

・保健の内容と重なっているので併せて行った。

・提示された図がわかりやすく、つながっていく命について興味深く、真剣に子どもたちが学習できた。

■まだ、自分で体験していない成長過程だったので、子どもには難しかったと思う。もっと分かりやすく考えられる展開にするべきだった。

小5 (生)

・男女参画お助け隊出前授業による共生の学習をする予定である。

・1月20日に悲しい事故が起きてしまったので、学年全体でも学級においても、命の大切さについて指導した。友だちの命がなくなってしまうことで、十分にその重要性を受け止めていた。命日や49日の日にも、学年で手を合わせ、今後の事についても考えることができた。

・地域の老人ホームに訪問した後に実施した。お年寄りに対し、優しく声をかけ手助けもしていきたいと思う児童が多くいた。また、施設の中の見学から高齢で身体が不自由でも、リハビリをしながら頑張っていることを知り、高齢者に対する意識が変わったという感想をもつことができた。

・養護の先生に視覚資料をたくさん準備していただいたのでよく理解できた。

小5 (性)

・理科の学習とリンクして行った。(多数)

・胎児の様子を詳しく学習させたら、神秘さに驚いていた。

・たくさんの精子の中から1つだけ卵にたどり着いて受精するという事に驚き、感動していた子が多かった。

・お腹の中で胎児が成長していく様子にも興味をもって学習することができた。

・資料が豊富にあり、児童も新鮮な感覚で、盛り上がって授業ができた。

・「すばらしい命～生命のたんじょう」は、5年理科の教材と重複し、より効果的だった。

授業の始めに「今日は大切なことをやるから真面目に聞くように、おもしろ半分はだめだよ」と指示して、興味深くきちんと参加できた。指導案・プリントに沿って進めた。動画(一部は削除して)をテレビ画面で映し出し効果的だった。

・興味本位になる子もいたが、生命の不思議さや大切さを考えることができた。

・母親から誕生する胎児の映像を、大変、関心をもって見ていた。

小6 (生)

・薬物やアルコール、たばこなどこれから自分が大人になっていく上で、人に勧められた時に安易に受け入れてしまうと、自分の人生を狂わせてしまうこともあることを学習した。真剣に話し合いができた。

- ・インターネットや携帯のトラブルについては、これからますます多くなる気がするので、中学校で情報モラルの授業をしっかりとやってくれると有り難い。
- ・ちかんについて考えた時、女子の中には被害にあった子もいて心配したが、クラス全体が被害にあわないためにできることを真剣に考えることができた。男子も被害にあうこともあると伝えると驚いていて今後注意していこうという気持ちになったようだ。携帯電話も持ち始めているので、メールや出会い系サイトのことも指導できるよい機会になった。
- ・夏休みに入る前に性被害にあわない学習は重要である。
- ・事例を通して、携帯電話の便利さと危険について考えることができた。資料を通していろいろな専門用語についても理解が深まった。

小6 (性)

- ・1学期に保健でエイズについて学習した。病気で、差別的な対応はいけないという意見がでた。3学期は、総合学習と関連づけて、自他の命の大切さについて考えさせる予定である。
 - ・学校公開日に実施した。「エイズと闘った少年の記録」を紹介した。一つの学校では差別をされたのに、もう一つの学校では受け入れられたということに着目し、それはどうということかを考えさせるため、「エイズについて正しく知ろう」というめあてで授業を構成した。感染経路から普通の生活では感染しないことを確認した。
 - ・よく知っている子、意外と知らない子、素直に考える子、必要以上にいやらしいと受け止める子・・・と様々であることがよくわかった。
 - ・ロールプレイを通して、実際にエイズの人が友だちだったらとか、自分だったら・・・と自分たちなりに考え、どう接していけば良いか考えを持つことができた。
 - ・自分が産まれる前・お腹の中から現在・未来・・・命の大切さ・性の大切さを学習できた。1年生の時から「命の授業」を行ってきた。最後の年、妊婦さんの体験をして産まれてきたことへの感謝・両親への感謝も感じる事ができた。継続したつながりのある「命の授業」に子どもたちも素直に学ぶことができた。・エイズに対して子どもたちは言葉の知識しかなく、怖い病気というイメージを持っていた。日常生活で感染することはないと知り、差別的な感情はなくなったように思う。
 - ・エイズに対する誤った知識で、不安をいただいていた児童が多かった。学習後、ブルーリボンのメッセージを理解した児童がいることを、授業後の感想からうかがえた。
 - ・「ちがいのちがい障害者バージョン」資料を使い、あっていい違いとあってはいけない違いについて個人で考えた後、班で話し合い、全体でも話し合った。障害者への偏見や差別を含めた人権意識、人権感覚について考えることができた。他の児童との話し合いを通して、さまざまな考え方があることにも気が付くことができた。
- 保健でエイズを含む(病気予防)の学習があるので、そのときに一緒に学習をするとよかった。

特別支援学級における生と性の指導… 養護教諭による授業を実施

「大切な命」をテーマに学校公開日に体験学習を入れて実施した。人生テープを貼って、ライフイベントを掲示することで、これから生きていくこと、そして、誕生前から命が始まっていることを指導した。命の始まりのカードの小さな穴の大きさから、

胎児の成長をエプロンシアターと胎児人形を持ってみることで実感させ、かわいい赤ちゃんと感じることができた。

生きて元気に働く大人になっていくために大切なことを考えさせ、ポイントをまとめた。

最後に赤ちゃん体験をして、お母さんに抱き留めてもらい、その後、お母さんの妊婦体験もして、大人になっていくために、元気な体を作っていくことが大切なことを押さえた。

公開日だったので、保護者にも命を守るセルフディフェンスと命を大切にする授業の2本立てで継続して指導していることを話した。

中1 (生) … セルフディフェンス講座で実施 (全校)

・外部講師を招いて、実習を含むセルフディフェンス講座を開催した。分かりやすくポイントを絞ったお話で、生徒達も集中して聞いていた。しかし、自分の身を守る行動は、繰り返し訓練をして身体にたたきこまないととっさの場合に実践できないと予測される。繰り返し、話題にしていくことや実習を行うことが必要だと感じた。

・2学期のセルフディフェンス講座の内容の中に含んで実施。指導案通りではなかったが、実技も交えて学習できて効果的だった。1年生は3年間の積み上げを考えた学級の時間の指導内容の1つとして位置づけ、3学期には性の指導を実施する予定。

中1 (性)

・①学年集会：「思春期橋をわたろう！」学年、養護教諭で実施

思春期の3つの出会い (大人の体、自分の心、異性) について学び、悩みや不安は誰にでもあることだと安心したようだった。

②学級活動：「自分らしさって何だろう」担任が実施

悩みへのアドバイスや悩みとの付き合い方 (解消法) を考えることを通し、自分らしさを見つめる機会となった。悩みから自分らしさへとつなげて指導することが難しかったという反省があった。

・資料や事前のアンケート等は適切で、生徒たちも興味を持ち、活発に交流していた。

・普段、周りの生徒と比較してしまっていることが多いので、自分を見つめ直すいい時間になったと思う。

■男女の違いについて強く意識している生徒が少なく、「悩み」までには至っていないように感じた。

■性の指導案に沿って実施したが、「自分らしさ」と悩み・解消法とどう結びつけばいいのか迷った。(複数)

■指導案に沿って実施したが、こちらの準備不足で深いところまで考えさせることができなかった。「自分らしさ」というテーマはとても難しいと感じた。学習3→4へどうつなげるかも難しかった。内容的に2時間に分けた方がいいかもしれない。

■自分らしさに関わってくる悩みを2に持ってこないと今日のめあてからはずれてしまう。

中2 (生)

・サイバー犯罪防止教室で実施 (多数)

中2 (性)

・導入で、生徒の発達段階を考えて、短歌ではなく音楽の歌詞から考えさせた。

・一学期に国語で短歌を学習する。そこで恋愛短歌を選び、授業の導入で使う。事前アンケートで実態を把握し、ワークシートで自分のこととして考えられるよう工夫した

・思春期の生徒たちの多くにとって、興味のある内容だった。アンケート結果を見せた時は大騒ぎをしていたが、「はばたく中学生」を読んだ時には静かになり、集中していた。(複数) ただ、一部の生徒たちにとっては抵抗感があったようで、終始こわばった表情をしてたことが気になった。

・なかなか話しにくい話題を男女混合グループで、何となく話せたということは 生徒にとって良い機会になったと思う。

・短歌はよく選ばれていると思った。

■携帯電話の普及もあり、「良い人間関係」といった方向に話が向きがちだった。

■この内容で感想を書くことがどうなのだろう。“男女差があるから相手のことを考えよう、となることは筋書き通りで「だから何を書くの」と聞かれたら「男女の差があること分かった?」「はい」「うん」、「相手の気持ちを考えないといけないね」「はい」「うん」となってしまうことを自分の言葉で書きなさいと言っているだけになってしまうのでは?だから生徒は困っていた。

■「相談された」よりも「そうやって誘われました」の方がやりやすい。

■「3 異性との交際について考える」のところでグループにする時間がなかった。ここで時間をかけ、グループで話し合わせたかった。その前の「悩みを相談する」ところは、グループでの話し合いはせず、記入させ、数名に発表させるだけでよかったのかなと思った。

中2 (生・性)

・①学年集会

②学級活動：「人を好きになる心～付き合うってどういうこと?」

1年生で学習した3つの出会いのうち、異性との出会いについて、深めた。性行動の男女差や個人差を学び、「好き」「愛する」ことや付き合うことについて考える機会となった。メールによるトラブルも含めて指導した。全体で共有する集会での学びから、話し合い活動を中心とした学級での学びにより、さらに深く考えることができた。

・保健センターの方に来ていただき、「生と性」についての指導を受けた。生命誕生の神秘性、発育に伴う男女のからだや心の変化、異性とのつきあい方などについて、具体例をあげながら話をしていただいた。生徒からは次のような感想が聞かれた。「僕は改めて、"自分が何億個の精子の中から選ばれた1個なんだな"と思った。自分は幸運なんだ。すごいんだ」といわれる事が一つ増えたように思います」

中3 (生)

中3 (性)

・保健センターから来てもらい学年集会として実施した。(複数)

・性感染症を考えることのきっかけとして、不思議な水実験をした。「すてきな大人になるろう」を考えるきっかけとして、中絶にも触れた。

・事前アンケートで実態を把握し、二学期の保健学習で学んだ性感染症についての専門的な指導を保健師の方にお話ししてもらい、色水実験を取り入れながらの模擬体験をした。

学年集会という形をとり、養護教諭だけでなく所属学年の教師全員が何らかの役で参加したことが良かったと思う。

中3 (生・性)

- ・学年集会：「すてきな大人になろう～性感染症の予防」：保健センター保健師に講演を依頼（複数）
- ・自分や相手を尊重したつきあいについて考え、深めることができた。

その他 …道徳の授業で「生と性のカリキュラム」に準じた内容で実施

- ・中2（性） 道徳：健全な異性感「だれかを好きになったら、あなたなら？」
- ・中3（生） 道徳：「命の授業」 6時間完了